

# 「超高齢社会と図書館～生きがいがづくりから認知症支援まで～」

国立国会図書館、図書館調査研究レポート No. 16 平成 29 年 3 月

## 1 背景と目的

超高齢者社会における図書館の課題を明らかにするとともに、そのあり方について考察する。

超高齢社会の課題：65 歳以上が全体の 21%に達した社会

- ① 生産年齢人口の減少
- ② 独居高齢者の増加
- ③ 社会保障費の増大
- ④ 高齢化と認知症

## 2 図書館サービスにおける高齢者の位置付けの変遷

(1) 図書館利用に障害のある人々としての位置付け

(2) 「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」平成 13 年（2001 年）

高齢者に対するサービスの充実に資するため、高齢者に配慮した構造の施設の整備とともに、大活字本、拡大読書器などの資料や機器・機材の整備・充実に努めるものとする。

また、関係機関・団体と連携を図りながら、図書館利用の際の介助対面朗読、宅配サービス等きめ細かな図書館サービスの提供に努めるものとする。

(3) 2007 年（平成 19 年）問題

第一次ベビーブーム（昭和 22～24 年）に誕生した団塊の世代の大量退職に伴う問題の総称

『図書館に行ってくるよ：シニア世代のライフワーク探し』近江哲史著（平成 15 年刊）から、図書館への要望

- ・新聞雑誌類がゆっくり読める場所（と椅子など）がほしい。
- ・小説や一般書が分かりやすい分類で置かれていてほしい。
- ・参考図書は児童ものと大人用の混架が望ましい。
- ・仕事がやりたいシニアにはビジネス支援の相談にのってほしい。
- ・人生のエンディングの相談としての遺言の書き方、自分史の書き方など指導してほしい。
- ・仲間とちょっと談話のできるスペースがほしい。
- ・セルフサービスでよいから、飲物・軽食の飲食できるコーナーがほしい。

(4) アクティブ・シニア、図書館活動をサポートする団塊の世代

横浜市都筑区、つづき図書館ファン倶楽部：図書館職員との協働

- ・市民のための読書推進活動
- ・図書館各種事業の企画
- ・外部評価

(5) 認知症支援

川崎市宮前区、図書館からアプローチする認知症支援

(宮前区の男性の平均寿命 82.1 歳で全国第 2 位、全国第 3 位は横浜市都筑区)

- ・関連図書コーナーの設置「認知症を知る～本で知る、専門家にきく」
- ・川崎市の認知症施策を紹介するチラシの設置
- ・情報コーナーの常設
- ・職員研修、認知症サポーター養成講座
- ・高齢者福祉施設での読み聞かせ、読み聞かせボランティアの養成